

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105516		
法人名	有限会社 幸生		
事業所名	グループホーム 明日香		
所在地	岡山市東区九幡44-5		
自己評価作成日	令和 6年 1月 25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 1月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の入れ替わりもあったが 経験豊富なスタッフも加わりさらなる支援の充実を目指している 入居者が穏やかに落ち着いて過ごせるよう日々のコミュニケーションを大切にしている 事業所の理念、〈笑顔・挨拶・誠実・思いやり〉を実践しつつ 入居者が安心して生活できるよう 自分は何をすればいいのかわからない課題を見つけチームケアに結び付けている 食事等にも気を配り、手作りで家庭での味を大切に好みものを取り入れるなどして提供している 地域の方からお野菜の提供もあります 良い関係づくりができていていると考えている 地域の皆様が気軽に立ち寄れる場所として 地域の中に根付いていけたらと思います

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念「笑顔・挨拶・誠実・思いやり」を大切にしており、日々のケアは入居者に寄り添い思いに耳を傾けた関わりをしている様子が窺えます。地域の方や家族が集めていた古タオルをくれたり、近隣の方よりお野菜の提供があったり、ホームを気にかけてくれている様子から地域に強く根付いていることが見受けられます。かかりつけ医は看取りの時には連絡がつく時間を共有したり、かけつけれる体制をとってくれるような協力があり、職員や家族の安心に繋がっていたり医療連携の強さが窺えるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を共通理解し 職員同士、入所者地域の方、家族、来訪者に対して挨拶、笑顔を忘れず そっと寄り添えるよう実践につなげている	理念はリビングに2か所掲示しています。新しい職員には管理者より理念を伝えていきます。日頃から職員は理念を大切にし、入居者の話をよく聞き本人にあった接し方をするように心がけています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が手作りの野菜、花などを持参して下さったり、苗を植えて下さったりもしている 回覧にて当施設の様子をお伝えしている	今も地域の方より野菜の提供があります。ホームのお便りを回覧でまわすことで、ホームと地域の情報を共有しています。地域の行事への参加は今後の感染症の状況をみて再開することを検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響でボランティアの訪問もなくなったが会議等ではご参加くださり 書面等でも情報配信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R5年5月より集まったの会議として再開し ご家族、地域の方に 行事報告、入居者の様子など報告、共通理解していただき 今後の支援につなげている 当施設へのご意見、要望などの声を聴きその都度対応している	運営推進会議には、家族代表、民生委員、管理者など参加しホームの状況を伝えられる場となっています。会議で古タオル(下清拭用)を募集した所地域の方や家族、職員からたくさん協力がありました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その都度 地域包括や事業者指導課より助言等いただいている	地域包括や事業所指導課の方も運営推進会議に参加してくれます。ホームでの勉強会にあった資料がないか相談したり、困りごとがあったときに連絡するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の適正化のための指針を策定し 身体拘束廃止委員会を立ち上げ 3か月ごとに委員会を開催している 全職員が共通理解しており 安全に生活していただけるよう工夫している	入居者の状況を考慮し安全を第一に家族や職員と相談し納得を得たうえでやむを得ず拘束に至っている事例が現状2件あります。指導課からの教示も含め拘束への対応をカンファレンスで話し合っています。	現在拘束に至っている入居者へのより良い対応が見つかることに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し 職員同士、支援方法を確認しながら 常に注意を払い虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会を開催し、相手をしっかり理解することが大切と理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は 十分な説明を行い 不安、疑問が生じないよう理解、納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に何でも話せる、相談できる雰囲気づくりに気を配っている 2か月ごとに生活状況のお知らせを送っており 信頼関係も築けている意見、要望は職員間で話し合い反映させている	面会や電話にて意見を聞き要望等反映していません。職員は家族が面会に来た際に入居者の良い事、悪い事も含めた状況を必ず伝えるようにしています。また、情報共有の一つとして2カ月に1回家族へ手紙を送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り、定期的に行われるミーティングにおいて個々の意見が出しやすいように配慮し反映させている	法人の代表も職員会議に参加しており、職員の意見を伝えられる機会があります。意見を出しやすい雰囲気があり、行事等したいことがあれば職員全員が協力してくれる様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は 管理者や職員個々の努力や実績状況を把握し 職員がやりがいを感じ向上心を持って仕事に取り組めるよう働きかけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識している すべての職員の質の向上を目指しており ケアの技術面、利用者とのかかわりについて指導を実施している 今後、外部の研修などにもより多く参加する		
14		○同業者との交流を通じた向上	他の施設見学、職場内での仕事の悩み解消など 事業所外の人材との交流を図り 意見交換する場を設け サービス向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入の段階で ご本人の困っていること、不安なこと、何を望まれているか見極め より良い関係づくりが出来るよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に 当施設を理解していただき 困っていること、不安を取り除けるよう関係を築いていく 要望にもすぐ対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭的な雰囲気大切に、安心して生活できる場であることを理解していただき 家族の必要時は助言、情報交換を随時行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の方はお客様であると同時に 暮らしを共にする家族のようでもある 人生経験の豊富な方々でもあり 尊敬の心を持ち 傾聴も大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との連携を大切に し 家族と本人の絆を大切にしながら連絡を密にして 共にご利用者を支えていけるよう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人にとって大切にしている思い出の人、物、場所との関係が途切れないよう、ご家族と連携し 支援に努めている	家族との関係性が途切れないように日頃から家族との話を思いだせるような声掛けを心掛けています。入居者の友人からの電話も取り次いだりして関係継続の支援に努めています。コロナの為受診以外の外出は中止しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格、趣味を把握し、より良い関係が築けるようテーブルの席の配置等にも配慮し ご利用者同士、交流が持てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの信頼関係を大切にしながら 必要に応じて相談、助言ができるよう支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の気持ちを尊重し、寄り添いながらその人なりの暮らしが継続できるように意向の把握に努め 困難な場合は利用者本位に検討している	日頃から本人の言葉に耳を傾けることに努めています。本人をよく知ることを大切にしており、好きな事(歌を歌うこと)や得意なことを職員と一緒にしたり、一人一人にあった会話や情報を提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折りに触れ会話の中から、又家族の方から情報を収集し よりよいサービスが提供できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態、残存機能力の把握に努め自立支援ができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がよりよく暮らすために アセスメント、モニタリングを行い 必要な関係者の意見、アイデアが反映され現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は介護計画を立てる時には職員に声をかけ意見を聞くようにしています。入居者は日頃から、家族は電話や面会で意見を聞くようにして、現状に即した介護計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきを記録して 職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響もあり 外出等は控えてはいるが ご利用者、ご家族のニーズに対して 必要時はその都度相談し支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな生活を楽しむことができるよう地域の図書館の本を借りたり、地域の行事に参加したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体状況に合わせ適切な医療が受けられるよう 月2回かかりつけ医の往診を受け、自歯の方には定期的な口腔内チェックを訪問歯科で受けている	入居する際に納得を得たうえで城南クリニックがかかりつけになることが多い様子です。受診は家族の協力を得ながら、適切な医療を受けられるように日頃の様子を文章にまとめて家族に渡すことで連携を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、在籍の看護職はおらず、必要な時は医療連携しているかかりつけ医に連絡し相談、助言をもらっている 密に連絡の取れる関係を持っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際、安心して治療ができるよう、又できるだけ早期に退院できるよう情報提供し 病院関係者との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が重度化した時 又終末期のあり方について 早期よりご本人、ご家族との思いを大切に話し合っている 事業所でできること、方針を十分に説明し 納得、理解していただいている 必要時はかかりつけ医と連携し支援に取り組んでいる	看取りは家族や本人の要望により対応しています。今までは医師の指示により入院する機会が多く看取りの実例はないですが、医師とは電話が繋がる時間帯を共有したり、何かあればすぐ来れる状況にしてくれるなどの協力体制が窺えます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え 全職員、応急手当や初期対応への訓練を行っている 講習会等にも参加し適切な対応ができるよう取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、水害訓練を行い避難経路の確認も行っている	地域の特性として吉井川が近くにあり、水害の可能性がります。避難訓練の際に水害訓練としてライフジャケットを実際に着たりして火災と水害の対策を行っています。玄関にはハザードマップを掲示しいつでも見れるようにしており、意識の高さが窺えます。	現状昼間想定避難訓練だけなので 今後は夜間想定訓練も実施することに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけや対応に努めている 勉強会を通し 適切な言葉かけであるか確認している	1年に1回必ず接遇に関する勉強会を実施しています。声掛けを大切にしたり、当たり前の事(訪室時にはノックや声掛け)をするように日頃から心がけています。不適切だと思われるケアに対しては職員間で声掛けし、より良いサービスを提供できるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご利用者が自己決定できるような声掛け、本人の思い、希望が表現できるような場面づくりに職員一同気を配っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の体調、気持ちを常に重視し、ご希望に沿った支援ができるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみ、入浴時の着替えも声掛けにて一緒に用意し自己決定を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、下膳等、できることは行っていただき、メニューの希望も取り入れたり、苦手な物には代替メニューで対応している。職員も一緒にテーブルを囲み食事を楽しむ支援を行っている	その日の様子を見ながら食事の下準備や炒める作業を職員と一緒にしています。食事はホームで手作りされており、献立は作る際に入居者の希望を聞いたりしながら決めることもあります。朝食は起きた順番から提供することを継続し、本人の嚥下機能や好き嫌いを考慮して食事提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量、栄養バランス等、一人ひとりの状態に合わせて支援している。必要な方にはミキサー食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員一同、口腔ケアの重要性を勉強会を通して理解し、ご利用者にも口腔ケアの大切さを知ってもらい、食後はご利用者に合わせて声掛け、セッティング、介助の支援を行っている。必要時は訪問歯科に相談している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切な時間にトイレ誘導、排泄を促すよう職員間で排尿時間、パターンを把握し自尊心に配慮しながら爽快感が味わえるよう支援を行っている	排泄表を活用してパターンを把握し自立や見守りなど本人にあった排泄支援に努めている様子が窺えます。使用する物品は一人一人にあったものを選定し、物品の変更などがある際には本人にも説明し同意をもらうよう声掛けするように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便日、量、質を記録し 自然排便を促すよう 一日四回のリハビリ体操や ヨーグルト、バナナ等 定期的に提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日2~3名でバランスよく ゆっくり入っていたできるように支援している コミュニケーションがしっかりとれる場として個々のお話をゆっくり聞くようにもしている 希望があればシャワー等も対応している シャワー浴の方には足浴もしている	週に2~3回入浴できるようにしています。基本午後からの入浴です。希望があれば午前中でも対応しています。本人の思いに添った支援を心掛けているので拒否があっても無理強いすることなく対応しています。ゆず湯をしたり季節を感じれるような入浴の工夫も見受けられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の生活習慣、その日の体調に合わせて 日中のお昼寝、また夜間安心して睡眠できるよう 空調、室温、水分等気を配っている 不穏時には寄り添い入眠を促している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はご利用者が服用している薬について 目的、副作用、用法、用量について理解し 服用後の変化を注意深く見守り 誤薬を防ぐため 職員二人で確認し 飲み忘れ、飲み落としを防ぐため口に入れ飲み込むまで確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるよう 出来ることの支援(テーブル拭き、食事の下ごしらえ、洗濯たたみ、新聞たたみなど)役割をもっている いただいた ご利用者の生活歴や力をいかした役割で 生きがいに繋がるよう支援していく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に合わせて 施設周辺に散歩に出かけている 季節に応じたドライブ等も行っている	入居者のADLの低下により以前より散歩ができなくなっていますが、天気の良い日や風が弱い日など頻繁に声をかけ玄関前で日光浴をし気分転換を図っています。少人数で近場の公園までドライブに行くことも時々あります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お預かりしている方はいないが希望があれば対応する		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を通じてやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用の空間づくりを心掛けている 玄関のお花、絵などの気配り、テーブル、椅子等の配置 ホールには季節感が出るよう工夫している	居心地の良く過ごせるように職員は入居者の相性を考慮して席の位置を決めています。行事の写真が掲示してあったり季節感あふれる飾りつけがされホーム全体がゆったりとした雰囲気が流れアットホームな様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はご利用者の関係性や相性を配慮し ご利用者の了承の上決めている レク活動の時は席を移動し楽しく過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は ご利用者の好みの物、使い慣れたものをご家族と相談し持参していただいたりし 居心地よく過ごせるよう工夫している	可能な限り使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしています。以前は季節ごとで家族が模様替えに来ていた入居者もいました。居室には扉とカーテンがあり入居者が開閉しやすいように配慮し居室のプライバシーも守れるようになっていきます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして 身体状況に合わせ 安全で出来る限り自立した日常生活が送れるよう支援していく		